

# 夏目先生と滝田さん

芥川龍之介

青空文庫



わたし  
 私がまだ赤門を出て間もなく、久米正雄君と一ノ宮へ行つた時でした。夏目先生が  
 てがみ  
 手紙で「毎木曜日ニワルモノガイが来て、何んでも字を書かせて取つて行く」という意  
 み  
 味のことを云つて寄越されたので、その手紙を後に滝田さんに見せると、之はひどいと云  
 つて夏目先生に詰問したので、先生が滝田さんに詫びの手紙を出された話がありま  
 す。当時夏目先生の面会日は木曜だったので、私達は昼遊びに行きましたが、  
 たきた  
 滝田さんは夜行つて玉版箋などに色々のものを書いて貰われたらしいんです。だか  
 ら夏目先生のもものは随分沢山持つていられました。書画骨董を買うことが熱心  
 で、滝田さん自身話されたことですが、何も買う気がなくて日本橋の中通りをぶらつ  
 いていた時、埴輪などを見附けて一時間とたたない中に千円か千五百円分を買つ  
 たことがあるそうです。まあすべてがその調子でした。震災以来は身体の弱い為もあ  
 ったでしょうが蒐集癖は大分薄らいだようです。最後に会つたのはたしか四五月頃  
 でしたか、新橋演舞場の廊下で誰か後から僕の名を呼ぶのでふり返つて見ても暫く誰  
 だか分らなかつた。あの大きな身体の人が非常に痩せて小さくなって顔にかすかな赤味  
 がある位でした。私はいつも云つていたことですが、滝田さんは、徳富蘇峰、三宅雄

二郎ろろうの諸氏しよしからずつと下くだつて僕等ぼくらよりもつと年としの若い人ひとにまで原稿げんこうを通つうじて交こう渉しようがあつて、色いろ々の作家さつかの逸話いつわを知しつていられるので、もし今後こんご中ちゆう央おう公論こうろんの編へん輯しゅうを誰たれかに譲ゆずつて閑ひまな時ときが来くるとしたら、それらの追憶録ついおくろくを書かかれると非ひ常じょうに面おも白しろいと思おもつていました。

# 青空文庫情報

底本：「大川の水・追憶・本所両国 現代日本のエッセイ」講談社文芸文庫、講談社

1995（平成7）年1月10日第1刷発行

底本の親本：「芥川龍之介全集 第一〜九、一二巻」岩波書店

1977（昭和52）年7、9〜12月、1978（昭和53）年1〜4、7月発行

入力：向井樹里

校正：砂場清隆

2007年2月12日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 夏目先生と滝田さん

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>